

新報国製鉄

三重、月産150トン体制移行

铸造能力増強投資が完了

新報国製鉄は、三重工場（三重県三重郡）における铸造能力増強の設備投資を完了し、月産150トン体制に移行した。足元までに7

00キ炉、1ト炉、2ト炉の溶解炉を各1基新設した。能力拡大に合わせ現場の担当者を増員し、来期（2019年12月期）ではフル

生産を実現する構え。19年までの3カ年中期経営計画で掲げる三重工場の能力拡大を実施したもので、一連の投資額は約3億円。

昨年7月に700キ炉と1ト炉を新設。今年1月中旬には、既存の老朽化した1ト炉2基を撤去した場所に2ト炉を設置し、投資を

完了した。これにより、3ト炉・2ト炉（新設）・1ト炉3基（内1基新設）・700キ炉（新設）の4電源6炉体制を構築。電源については、2ト炉で新設、既存の1ト炉2基で更新した。2ト炉の導入により、3ト炉と同時活用することで製品の最大単重を4トンから5トンに引き上げた。2トの

铸造を生産する際の効率も大幅に向上する。不要なラインを撤去するなどレイアウトも整理し、溶解炉から铸込み場所への距離を近付けた。リードタイムを短縮し、生産効率を引き上げる。今後は担

当者を増員、時差出勤により铸込む回数を増やすなど、拡大した能力をフルに生かせる体制にシフトしていくことも考えている。

成瀬正社長は「昨年

から生産が繁忙なだけに良いタイミングで増強できた。早晩に150トフルに近付けた」としている。

3面に関連記事

鉄鋼新経営

構造変化に挑む

— 足元の環境認識
— 外部環境が非常に
— 2017年12月期
— 後半にかけて、有機E
— L液晶などFPD
— ラッドパネル・ディスプレイ
— プレイ、関連や半導体
— 製造装置向けに低熱膨
— 張合金(インバー合金)
— が好調に推移。シリコ
— ンウエーハの精密研
— 磨定盤も増えてきて、
— 約10年ぶりに好況を迎
— えている。今期につい
— ても、FPDや半導体
— 製造装置関連の好調は
— 続く。研磨定盤も前期
— を上回る見通しで、全
— 体としてリーマン前の
— 好調時に匹敵する見込
— みだ。こうした状況下、

納期遅れや品質問題を
起こさないことが大
事。当社は2年連続で
ニコソンの優秀調達先に
選定されており、迷惑
をかけることのないよ
う安定的な生産を維持
していきたい」

— 今期は売上高68
億円と、中計最終とな
る19年12月期目標(60
億円)を上回る計画。
「主要需要家による
情報を基に今期は高い
確度で予測している。
さらに、19年につい
ても増産したいという話
も聞いている。調整が
入るとすれば、20・21
年ごろではないか。中
計の売上高目標はあく
まで目安なので、上方
修正したりは考えてい

「AIやIoTの進
展で半導体の需要が大
きく伸びていくとの観
測が有力。そうなるこ
ない」

「AIやIoTの進
展で半導体の需要が大
きく伸びていくとの観
測が有力。そうなるこ
ない」

「AIやIoTの進
展で半導体の需要が大
きく伸びていくとの観
測が有力。そうなるこ
ない」

「AIやIoTの進
展で半導体の需要が大
きく伸びていくとの観
測が有力。そうなるこ
ない」

製造実力地道に向上



新報国製鉄社長 成瀬 正氏

ながら、米
国のメーカ
「会社のモチベーシ
ョンとして旗を掲げる
意味合いで設定した。
逆を言うと、何が何
でも100億円というこ
とではない。中身の良
いものをそれだけ集め
たいと考えている。そ
のためには現在の好況
に甘んじず原点を立ち
返り、足元を固めてい
く必要がある」

画面が必要となり、F
PDも伸びていく。方
式が変わることで需要
が変化する懸念は常に
あるが、FPDでは有
機Eに代わるものは
今のところ見当たらな
い。半導体製造装置で
は、新たにナノインプ
リント技術が出てきて
いるが、そちらにも当
社の材料は出せるなど
フォローできているの
で問題ない」

AXA関連では耐極寒
ゼロインバー合金「I
CLTX」が採用され
る方向で話が進んで
いる。売上高ではまだ
まだだが、宇宙・航空
分野の中心である米国
への進出の足掛かりも
少しずつ見えている。
「29年一創立80周
年に売上100億円

「具体的な課題を
開発における取り組み
から1人ずつ出す予定
だ。また私自身が講師
となり、管理職を対象
とした講座を6月をめ
どに開く」

「三重工場は今年1
月中旬に能力増強を完
了し、製造能力は月産
150トに引き上がった。
本社は、素形材
事業部として出荷効率
の向上とピーク対応に
向けラックを導入し、
出入庫を効率化するな
ど取り組んでおり、そ
れを見据えた、生産性
や品質の向上を目指す
ための投資を検討する
ため、今月初旬にプロ
ジェクトチームを立ち
上げた」

宇宙・航空分野を開拓

「天学など外部研究
機関と提携して、凝固
解析シミュレーション
やインバー合金の材料
開発に努めている。加
えて、旧住友金属工業
OBで技術開発に携わ
った人を月1回招い
て、指導を受けている。
三重工場では作り込み
の強化に向け設備面
のアドバンスももちろ
ん。経験豊富な外
部人材と意欲的な若手
が化学反応を起し、一
歩登っていきける」と期待
している。また当社の
研究開発部では、10人
中2人が大学院で学位
を取得しているが、近
い内にもう1人増やし
たいと考えている」

「人材育成という部
分では今期、当社とし
て初めて外部の経営幹
部育成研修に社員を参
加させる。本社と三重
(伴野 隆馬)